



2026年 9月 1日
第35号

JR 東労組 Yokohama



JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一

編集 情宣 担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



横地申「グループ会社と一体となった業務執行体制の深度化」に関する申し入れ 団体交渉 第3号 を行う！⑦

【JR本体の体制に関して】

22. 南武支線用の 205 系について、今後の車両運用計画を示すこと。また、JRで交番検査および臨時修繕ができるように職場全体で技術継承を行うこと。

(回答) 205 系の車両運用等については、現時点で決定しているものはない。引き続き、必要な教育は実施していく考えである。

組 合	会 社
作業で対応できる社員も限られている。今後も使用していく間は、鎌倉車両で技術力を保持していくことで良いか。	その通りである。鎌倉車両総体で技術継承を行っていく。未経験者についても、必要があれば見習いを行っていく。

23. FV-E991 系およびプレスされた量産型の水素車両について、今後の車両運用計画を示すこと。また、JRで機能保全および臨時修繕ができるように職場全体で技術継承を行うこと。

(回答) 水素車両に関する車両運用等については、現時点で決定しているものはない。引き続き、必要な教育は実施していく考えである。

定期運用が始まったとしても、Hybari の機能保全や臨時修繕は鎌倉車両が行っていく考えか。	現時点においては、そのように考えている。すでに鎌倉車両の社員の見習いも始まっており、検査や修繕に関する技術継承も行っていく。
--	--

24. 現状はJRが対応している水素充填作業について、水素車両を定期運用で使用する場合の作業体制について考え方を示すこと。

(回答) 水素車両に関する車両運用等については、現時点で決定しているものはない。

水素充填について、前後の作業も含めて、現状で人手と時間がかかる作業である認識はあるか。	時間がかかるという認識はある。
鎌倉車両から作業の都度、社員を派遣するのか。	細かいところまで決まっていない。
営業車が投入されるまでに、作業方法の改善を図ること。	ご意見として承る。
Hybari は見学者の対応も多い。今後についても、負担にならないようにすること。	大きく変わらないと考えるが、鎌倉車両と調整して、やり方を確立していく。

25. 鎌倉車両(中原)で新たに業務を行う社員に対して、構内ルール等の安全教育と、車種と設備に関する教育を行うこと。

(回答) 必要な教育は実施していく。

今後、本区社員が中原で作業する機会が増えると想定する。構内の安全教育はどのように行うのか。	行く日が決まっていれば事前に行えると考えている。
車両に関する教育はどのように行うのか。	基本的な車両は E233 系であれば大きく変わらない。他の車種については、経験のある方や指導担当から行えると考えている。

26. これまで鎌倉車両(中原)が対応してきた南武線の駅電留や弁天橋構内での作業に関して、新たに担う社員に対しての安全教育を行うこと。

(回答) 必要な教育は実施していく。

25 項と同様に、新規で対応に向かう社員にはしっかりと教育を行うということで良いか。	その通り。経験者に同行してもらいながらなど、やり方はいろいろとある。
雪害対応について、南武線沿線の駅電留での対応について、新規者への教育を行うこと。	必要な教育を行っていく。

27. 鎌倉車両(中原)が担ってきた南武線および周辺線区での輸送障害時の駆け付けについて、周辺の車両職場あるいは派出検査の出動態勢を強化し、即応体制が低下しないようにすること。

(回答) 輸送障害時の対応については、引き続き、関係するエリアと連携して対応していく考えである。

中原の JR 本体の体制が大きく縮小となるが、南武線・南武支線・鶴見線の輸送品質を低下させないこと。	周辺の車両区所や派出検査と協力しながら、対応を行うことで、輸送品質を維持していく。
指令に、中原の体制が縮小されることは周知しているか。	まだ周知は行っていない。ご意見として承る。
周辺の派出検査に、Hybari の対応の教育を行うこと。	これまで見ていないのであれば何らかの教育は必要だと考えている。
本線対応は JR が行い、受託会社に行わせないこと。	本線対応は JR が行う。受託会社を出動させる考えはない。